

LATITUDE 40N

2016年
8月●日

通巻64

●発行／(公社)秋田県診療放射線技師会 〒010-1106 秋田市太平山谷字中山谷247-32 TEL・FAX(018)838-3231
 ●発行責任者／豊嶋 英仁 ホームページ <http://www.aart.jp> AART E-mail:akita@aart.jp



巻頭言

会長就任のご挨拶

(公社)秋田県診療放射線技師会 会長 豊嶋 英仁

平素、県技師会活動にご協力をいただきありがとうございます。このたび、平成28・29年度の会長を拝命いたしましたので、ご挨拶を申し上げます。

2年前に診療放射線技師法が一部改正されて、以下の業務拡大がなされました。①CT・MRI検査等での自動注入器による造影剤の注入、②造影剤注入後の針の抜針・止血、③下部消化管検査の実施(カテーテル挿入も含めて)、④画像誘導放射線治療時の腸内ガスの吸引のためのチューブ挿入。

これらの業務を行うための絶対条件として、医療安全を担保することが求められます。そのためには、業務拡大に伴う必要な知識・技能を習得することが厚生労働省から努力義務として我々に課せられました。日本診療放射線技師会は厚生労働省と協議の上、統一講習会を企画し、全国都道府県診療放射線技師会と連携して2日間にわたる「業務拡大に伴う統一講習会」を開催している次第です。今年6月初旬に開催された日本診療放射線技師会 総会における中澤会長の講話では、統一講習会を全国で200回開催し、修了者10,000名を目指しておりました。秋田県診療放射線技師会としても重要な取り組みとして認識しています。秋田県内では統一講習会を今まで2回開催し100名弱の修了者を輩出してきました。今後は、受講制限を設けずに統一講習会を継続して、200名以上の修了者を目指す予定です。

さて、現在の県技師会所属の会員数は350名

を越え、一時期に比べて少しずつ増加してきました。年代構成の割合を調べてみますと、60歳代が5%、50歳代が21%、40歳代が21%、30歳代が22%、20歳代が31%でした。以前に比べると、若い世代が増加していることが判りました。この状況を踏まえて、当技師会の責務は、若い世代の将来を見据えて情報の発信、スキルアップの場の提供、そしてリーダー格の育成が重要であると考えます。

若い世代を取り込んだ当技師会全体の活性化は大きな課題です。常に進歩する医療界に従事する診療放射線技師にとっては、学術研究・医療安全的なスキルアップは第一に重要であり、さらにマネジメント業務も重要とされており、これらをトータル的に取り組むことが必要です。職場はどちらかと言えば縦社会であり、閉鎖空間です。高度な画像診断機器を有する総合病院・専門病院にあっても、クリニック・診療所や検診施設にあっても志を高く維持することが大事です。そのために、職場に縛られずに他施設との横のパイプを太く密にして、情報や知識を共有してモチベーションを高めることが、延いては職場全体のスキルアップに貢献し、患者・受診者にメリットが生じると思います。このように県民医療の向上に寄与するよう当技師会の活性化に努めていきたいと考えております。

今後とも、皆様の当技師会へのご理解、ご協力をお願いいたします。

副会長 挨拶



副会長職を拝命して

(公社)秋田県診療放射線技師会 副会長 川 又 渉

この度、副会長への就任を仰せつかりました川又でございます。

このような大役を仰せつかるには、甚だ微力であります。大役を仰せつかる器ではないことは、自身がよく理解しております。選出委員会よりご推薦いただきましたことは、甚だ光栄に存じます。まだまだ未熟な若造ではありますが、先輩各位ならびに会員の皆様のご指導・ご助言、ご協力をあおぎ、業務に邁進してゆく決意であります。

今、診療放射線技師は転換期の真ただ中におかれていると考えております。一昨年度、数年ぶりに診療放射線技師法の改正、業務の拡大が通知されました。秋田県としても、会員のみならず未入会の技師も対象に含めて、講習会を開催・企画しているところです。ひとり職場の環境も考え、日日開催(2週に分

けて日曜日のみ開催)も検討しております。

全国的には、国政に我々の声を届けようと頑張っている診療放射線技師もおります。皆様のお力、1人1人の行動が、大きな力となります。一致団結して、診療放射線技師を更なる高みに上げていかなければなりません。

私の役といたしまして、学術を担当することとなりました。情報畑が長いせいもあり、学術関連分野にはすぐに溶け込めないような気がしております。しかしながら、再び初心に帰り、自らも学び、努力し、皆様とともに理解し合い励まし合って、秋田県診療放射線技師会のさらなる発展に寄与できればと考えております。

皆様方のあたたかいご理解とご協力を心からお願い申し上げます、就任のごあいさつと致します。

新理事 挨拶

理事就任挨拶

平鹿総合病院 佐藤 親 生

平鹿総合病院の佐藤親生です。今回初めて理事に就任させて頂くことになりました。

今まで技師会の仕事をしておらず、ほとんどお客さん状態で参加して来ました。これからは、諸先輩方からご指導をいただき

ながら、技師会の行事や勉強会を大いに盛り上げていきたいと思っています。微力ながら一生懸命に頑張りますので、これからよろしくお願い致します。

新理事 挨拶

理事に就任して

能代山本医師会病院 畠山保雄

日本診療放射線技師会は、職能の発展のため技師法の改正を大きな仕事とし常々活動してきています。法改正を進めるためには、国会議員の存在がかかせません。7月10日投開票の参議院選挙では、必ず診療放射線技師の議員が誕生できると信じています。

平成20・21年度以来、7年ぶりの理事となりました。公益法人として名称が変更され、技師会総会及び活動も大きく様変わりしております。突然ですが、ドラマ「フラジャイル」ご覧になられたでしょうか。検査技師が病棟検査技師として、救急患者の検査内容などをDrと意見交換している場面がありました。われわれ診療放射線技師も「読影の補助・検査等の説明・相談」という

医政局長発の通知により診療放射線技師が検査コメントを残している施設も多くなっていると聞いています。また、現在行われている統一講習会により、静脈路に造影剤注入装置を接続する行為、抜針・止血、下部消化管・IGRTにおけるカテーテルからの空気吸引などの業務拡大がなされました。他の職種も必死になり、いろいろな取り組みが行われています。これからもチーム医療における診療放射線技師の役割の幅を広げ、社会的認知の向上に努めていかなければならないと思います。また、県北支部としても総会、のしろ産業フェア、ナイトセミナーと多くの会員に参加していただきありがとうございます。今後も皆様のご協力をお願いいたします。

理事就任の挨拶

秋田赤十字病院 大隅康之

秋田赤十字病院に在籍しています大隅康之です。技師となって20数年、技師会には数多くの思いと愛着があります。矢嶋元会長から前任の田口財務理事に至るまで、当院と技師会は何かと縁があるようで様々な活動を目にしてきました。以前行われていたレントゲン祭やナイトセミナー・各部会などの学術分野での施設間交流、また昨今のネット環境の普及によりHPを使い幅広く県民への広報活動を行うなど、各支部を

含めた秋田県技師会は多岐にわたって活動を展開していると認識しています。

今回理事として入閣したわけですが運営に関しては分からないことばかりです。会長・副会長はじめ、各専任理事の皆さまにはご迷惑をかけるとは思いますが、自分なりにお役に立てるよう心掛けていきたいと思っております。以後よろしく願います。

新理事 挨拶

理事就任挨拶

秋田大学医学部附属病院 照井正信

本年度から理事を仰せつかりました。よろしくお願ひ致します。

総会後の臨時理事会で柴田理事(副会長)から、公益社団法人の説明があり、「会員みんな社員であり、ここの理事はいわゆる経営陣です」の言葉に事の重大さに改めて気づきました。いわゆる、会社組織と何ら変わりなく、公益を目的(営利追求ではなく)とした団体(会社)ということです。(自分にできるかなあ・・・が、正直なところでしたが)先日第2回理事会が開催され、前回から担当されている理事の方々の報告などを伺っ

て、これは頑張つて責務を果たさなければという思いも出てきました。経営には全くの素人ですので前任の方々にご指導頂きながらまずは2年間やっていきたいと思ひます。

秋田県診療放射線技師会(会社)が公益社団法人として活動することで、我々の会社が社会的役割を果たし、会社が発展することは私たちの社員の誇りにきつとなると思ひます。そのためには社員皆様のご指導、ご協力を仰ぎながら頑張りますので、よろしくお願ひ致します。

理事就任にあたって

雄勝中央病院 高橋麻冴子

平成28・29年度の理事を務めさせていたたくことになりました雄勝中央病院の高橋麻冴子と申します。技師会に入って、まだ10年足らずではありますが、足手まといにならないように精一杯やってみようと思ひています。

日本診療放射線技師会雑誌6月号に掲載されていたCherishの会の記事を読みました。仕事や家庭はもちろん、自分自身も大切に、女性が活躍できるための環境や社会を

よりよくしていこうという意味のCherishだそうです。私自身もワークライフバランスに悩んでいるところなので、同じような活動が秋田県でも広がっていったらいいなと思ひながら記事を読みました。先日、理事の仕事内容を聞いたらスケジュールがタイトだったので、当面は自分のことだけで手いっぱいになりそうです。右も左もわからず、まだ不安しかありませんが、どうぞよろしくお願ひします。

新理事 挨拶

新理事就任のごあいさつ

JCHO秋田病院 平塚 美由樹

この度、理事に承認いただきました、JCHO秋田病院の平塚美由樹と申します。(JCHOは旧社会保険病院です)技師18年目、中1と小4の子を持つ母です。理事のお話をいただいたとき、母業を理由にお断りしようと思いましたが、手がかかっていた子供たちもいよいよ学業に力を入れていかなければいけない時期になり、頑張る母の姿を子供たちに見せ、一緒に勉強できればと、お引き受けすることにいたしました。

私は若いころに県技師会主催の研修会に行く途中に追突事故を起こしたことがあったり、他にもちょっとしたトラウマがあったり、そのうちに結婚し、出産し、土日くらは子育てしなければと、技師会の行事

や研修会には必要最小限しか参加してきませんでした。今回、「今度理事を引き受ける」と、何人かの方に話したところ、皆さんがすごく引いておられ、理事の皆さんの苦労も知らず、大変なものを引き受けてしまったのかと、大きな不安に駆られました。けれども、先日の総会と学術大会に参加し、先輩理事の方々が楽しんで仕事をされているのを感じ、私も、私なりに出来ることから楽しんでさせていただければと、頑張る決意をいたしました。

なるべくご迷惑おかけしないように、務めさせていただきたいと思います。皆様ご指導よろしくお願いいたします。

新理事就任のご挨拶

由利組合総合病院 渡部 桃子

この度秋田県診療放射線技師会の理事を務めさせていただきます、秋田厚生連由利組合総合病院の渡部桃子と申します。診療放射線技師としての経験も浅いのですが、諸先輩のお力をお借りして勉強させていただきたいと思っております。

これまで、秋田県診療放射線技師会の活動に頻繁に参加することができずに過ごしてまいりました。たぶん同じ職場の同年代、もしくは後輩にあたる診療放射線技師も同

じような状況で、秋田県診療放射線技師会というのは雲の上の存在という印象を持っているかもしれません。そこで今回、私が理事の仕事をさせていただけることとなりましたので、そのような印象を持っている当院の診療放射線技師もたくさんの活動に参加できるよう、情報伝達に力を入れていきたいと思っております。2年間よろしくお願いいたします。

功労賞の表彰

[表彰]

平川 修 様 佐藤 義晴 様
 齊藤 龍晴 様 郡山 邦夫 様
 工藤 和也 様



功労賞を受賞して

北秋田市民病院 平川 修

この度は公益社団法人秋田県診療放射線技師会藤原会長はじめ理事の皆様方の推薦により、功労賞を受賞することができ恐縮するとともに大変名誉に存じます。

放射線技師となって35年あまりになりますが、県理事や県北運営委員を微力ながらも何度か務めさせていただきました。最初の県理事は平成9、10年度矢嶋会長時代で、会長の強力なリーダーシップのもと懸案事項でありました自前の技師会研修センター・事務所を完成させた時期でした。この時期はほかの理事さんについていくのがやっとなりで、ほとんど何もできず右往左往していた思い出があります。2度目は平成14～17年度で会長は相模司氏でした。相模会長は被ばく低減に尽力された方で、管理士協議会の被ばくポケットガイドの作成や定款見直し委員会に若干ですが関わらせていただきました。そして今回の3度目では、1、2度目とは年齢や立場が違い一概に比較はできませんが、藤原会長のもと業務執行理事として県北支部長と企画委員会を担当し、他の理事さんとともに有意義に楽しく活動させていただきました。理事を経験

して、これら多くの諸先輩や他の会員との交流はとても大きな財産になりました。皆さんの中には「技師会役員は大変だな、よくわからないな」と思われるかもしれませんが、そんなことはありません。みな協力的ですし、わからないことは気軽に教えてくれます。一度理事会の輪の中に入れてみることをお勧めします。

秋放技は58歳以上の会費値下げや初年度入会金無料などの施策により組織強化を目指しており、研修会などにできるだけ参加しやすい環境づくりに努めております。この賞を受けて今後とも微力ながら秋放技の活動に協力していく所存ですし、これからは後進の育成に重点をシフトして活動したいと思っております。

最後になりますが、推薦していただいた藤原会長はじめ理事の皆様方、県北支部会員並びに役員の方々、北秋田市民病院放射線科スタッフに心より感謝申し上げますとともに、公益社団法人秋田県診療放射線技師会のますますの発展を祈念しお礼の言葉といたします。

功労賞の表彰



功労賞をいただき

平鹿総合病院 佐藤 義晴

この度の社員総会で功労賞をいただきました。皆様にはお礼申し上げます。

4年前、AART理事と県南支部長の役を受けました。それまで特段積極的に技師会活動に携わっていた訳でも無く、当時の会長であった土佐さんを始め役員の方々に乗っかって行けばいいやとの開き直った気持ちで向かいました。

初めてのAART理事会で、土佐会長が「現状の診療放射線技師の身分では満足できない、技師法も今の働き方に合っていない、そこを変えないといけない。その為には、個々の会員は研修を積んで強くならなければいけない。」と、話されたことを記憶しています。その為に技師会活動がある。その考えを基に理事会は、様々な講習会等の企画また、AARTを公益法人化し県民、会員ともにメリットを享受できるシステムの維持と運営をする事でした。言葉にするのは簡単ですが、特に実務を執り行った業務執行理事の方々は大変な労力と時間を使い奮闘し、ご苦勞されていることを肌身で知りました。無力な私は足を引っ張らないようにしようとだけ思い活動して来ました。

支部長という事で年頭のAART会誌には、年頭所感の執筆を広報部から依頼されます。この会誌は、公称発行部数600部で県内高校の進路指導室や図書館を始め様々なところへ

配布され、しかも顔写真付きです。元々作文が苦手な上に、大それた発想力もない私は、発行部数を聞いた途端緊張し何を書けばいいか分からなくなり、この4年間は原稿締め切りの12月が近づくと憂鬱になりました。参考になるものは無いか、世の人々はどんな文章書くのかと思い、新聞のコラムや社説を以前よりも読むようにしました。でもこれも簡単にはどうにもなりません。センスと物事に対し深い知見が無いと書けないと打ちのめされ、かと言ってパクリもいけませんし、自分なりに日頃の思いを書くしかないと観念しました。今思うと内容が会誌の趣旨にマッチしていなかった感が否めません。

理事をやらせていただいて良かったことは、活動を通して旧知の理事の方々には助けてもらいありがたいなど感じ、他院に勤務する理事の方々と一緒に活動をする中で意見や情報を交換し、刺激し合えた事です。4年間はあつという間で、会長を始め難儀されている理事の方々はどうやって仕事と両立しているのだろうか？忙しい人程充実して良い仕事をして信頼につながるのだなと実感しました。

これからは、一会員としてまだまだ技師会にお世話になります。同僚の若手会員の尻をたたいて技師会活動へ向かわせるのが私の任務かなと勝手に思っています。今後とも宜しくお願い致します。

功労賞の表彰



功労賞を受けて

市立田沢湖病院 齊藤 龍晴

まずは、会員の皆様に受賞に際してお礼のご挨拶を申し上げます。私のような者が功労賞をいただけるなんて、思いもよらないことで驚きました。今までに受賞された方々は技師会に対する貢献度に疑う余地のない人ばかりでした。それに比べ、私などは県南支部・県技師会で役員・理事を長年務めさせてはいただきましたが、実績が乏しく恥ずかしいばかりです。

小さな病院勤務しか経験のない私は、診療放射線技師としての知識・技術のみならず、コミュニケーションスキルや一般的な医療知識などを当技師会から大いに教わったと感じております。全てが積極的な参加ではありませんでした。役員だから、理事だから参加しなくてはと思い研修会に参加したこともありましたが、しかし、参加することで得た事が必ずありました。医療機関にCTが導入され30年を超えました。その後はMRI、超音波装置も加わり診療放射線技師の業務内容も大きく変わりました。検査法や撮影技術、必要とされる病理・解剖の知識など、個人学習では習得が困難なことが、診療放射線技師会の研修等によりタイムリーに会得できました。小規模病院では経験が難しい、核医学・放射線

治療・循環器撮影などの最新の知識が得られたことは、患者さんからの病気相談の際に大いに役立ちました。昨今、医療と事故、訴訟といった問題も他人事ではありません。医療安全・感染対策・医療機器の点検など、目をそらしがちな内容も取り上げ、時代背景を考慮した研修は、患者さんばかりでなく自分自身を守る研修でもあったと思っております。技師会活動に参加することで、医療従事者としてのかけがえのない財産が形成されたと言っても過言ではありません。

人気番組「笑点」では司会の歌丸師匠が勇退されました。番組スタートから50年間活躍しての引退でした。テレビっ子、落語好きの私が、時を同じくして功労賞をいただきました。全く異質の事柄ではありますが、過去を振り返り、感慨深い受賞となりました。

総会後の理事挨拶でもお話をさせて頂きましたが、今後は自己の成長ばかりでなく、技師会で得られた知識・技術を微力ながらも現場にフィードバックできるように努めたいと思っております。会員の皆様にお礼を申し上げますとともに、秋田県診療放射線技師会のみならずの発展をお祈り申し上げます。

功労賞の表彰



功労賞を受賞して

市立横手病院 郡山邦夫

今回、公益社団法人秋田県診療放射線技師会功労賞と栄誉ある賞をいただきありがとうございます。私は昭和58年に診療放射線技師免許を取得し、翌年に当時の日本放射線技師会及び秋田県放射線技師会に入会いたしました。その当時は一人勤務の病院にて仕事をしておりましたが、当時の休みは週休1日制で土曜日も17時まで勤務しその他に月1回の休みがありました。県南支部の研修会や総会は土曜日の午後からでしたので何とか参加出来ました。しかし、県の研修会及び総会は秋田市で行われておりましたので、勤務先から秋田市まで約3時間程かかりほとんど参加した記憶がありませんでした。ただ県南支部の研修会や総会には参加しておりました一人勤務の技師ということで県南の施設の先輩技師の方々には大変かわいがられ大変お世話になりました。

社会人になってからの基礎は勤務先の大先輩技師である故佐藤長太郎さんにか月間の申し送り期間に色々とお世話になりました。また故佐藤長太郎さんが退職されてからもよく自宅を訪問して撮影技術や悩み事にも相談にのっていただきました。県南支部でも研修会の後の懇親会にて県南の施設の先輩技師の方々にお悩み事を相談しても快く相談にのっていただき大変心強かった思い出があります。県南支部は研修会も総会も懇親会も参加率が高く今思えば若いころは県南の施設の先輩技師の方々にお育ていただいた事に大変感謝しています。

その後ご縁がありまして県外の施設に一時お世話になりましたが、平成4年4月に現在勤務している市立横手病院に勤務する事になりました。当時本宮匡純さんが技師長をされており、また県技師会の監事をされておりましたので県技師会の動向をリアルタイムで知ることが出来たせいか、この頃から県技師会主催の研修会、総会に参加するようになりました。研修会の内容も技師が講師の講演(以前は、医師、医療機器メーカーの技術者、薬剤メーカーの学術担当の講師の先生方が主)を聞く機会が多くなった記憶があります。県技師会では矢嶋会長の時代で社団法人格の取得、秋田市での全国放射線技師総合学術大会への役員としての参加、(社)秋田県放射線技師会の独立事務所取得の為に拠出金を提出し、やっと自分たちの独立事務所が確保

でき、ようやく団体として一人前になりうれしかった思い出があります。

また平成12年に当施設の藤原理吉技師長が県南支部長になってからは私が県南支部事務局長、法花堂学さんが会計担当に任命されました。そのときはまず県南支部で学術大会を行いたいということで各施設から演題を集めたり、その当時の話題のCRについてのシンポジウムを行ったりしました。それと東京から菅和雄先生をお呼びし腹部エコーの実践講義を行っていただいたりしました。また県南総会学術大会を県技師会、技術学会東北部会のように一泊で企画し、横手かんぼの宿で一回、湯沢温泉で2回企画し夜遅くまで酒を飲みながら色々とお世話になりました。また県南支部会員や当時の矢嶋県技師会会長とディスカッションした思い出が昨日のように思い出されます。県南支部の事務局長の任期が終わり2年後に、今度は県理事2期4年と県南支部役員5期10年をやらせていただきました。その任期の間に(社)日本放射線技術学会東北部会学術大会及び(社)日本放射線技術学会秋季秋田大会の実行委員会の委員としての参加を経験させていただき大変思い出に残りました。県南支部では主に学術担当をしておりましたが、最近では研修会、学術大会の演題を集めるにも、また座長をお願いするにも簡単に引き受けていただき、最近の若い診療放射線技師は目的をもってなるべくしてなったという印象があります。

これからの若い技師に期待することは放射線診療についてしっかり実践及び説明できる事(私の近所の方に放射線検査はコンピュータで出来るので誰でも簡単に出来るという人がまだいますが、皆様の近くにもいるかもしれません)。また機会がありましたら、薬剤師、看護師、リハビリ関係職種の方々、栄養士の方々と同じように一般市民の前で市民医学講座のような形で講演ができるスキルを身に付けていただきたいと思っております。最後に、だれでも出来るスイッチONだけではなく、せめて市民の為に知識で医療被ばく相談にのれるようなスキルを身に付けていただきたいと思っております。とりあえず9月3日(土)にAUにて放射線安全管理セミナーが開催されますので、ご自身の医療被ばく説明相談実施の理論武装の為に是非参加して下さいませようご案内申し上げます。

功労賞の表彰



学術功労賞を受賞して

市立秋田総合病院 工 藤 和 也

この度、第76回(公社)秋田県診療放射線技師会 定時社員総会におきまして学術功労表彰を頂き、心より感謝申し上げます。受賞にあたり推薦頂きました公益社団法人秋田県診療放射線技師会会長はじめ、理事の皆様方に心より御礼申し上げます。

過去に学術功労賞を受賞された方々は学術的に大きな成果を上げた方ばかりなので、私のようなものが受賞していいものかと恐縮しきりであります。

今回の受賞の理由ですが「秋田県診療放射線技師会主催の研修会において、その運営に関わり会員の知識や技術の習得に尽力された」とのことでありました。

振り返りますと昨年は秋田CTテクノロジーフォーラム、東北CT技術研究会といった規模の大きい研究会で当番世話人として企画運営に関わり、盛況に終わることが出来ました。とても大変でしたが本当に充実した一年を過ごすことができました。

また、秋田市内の病院でCTに興味を持っている方を対象に、秋田CT研究会を4ヶ月に1回のペースで開催しておりますが、そのお手伝いもさせて頂いております。

最近では、県技師会の放射線安全管理委員会の委員として、CTだけでなく様々なモダリティに関しての活動にも携わらせて頂いております。

皆様も同じかと思いますが、仕事をしていると自施設では解決できない様々な疑問が生じます。最新の知識の習得や得た知識の再確認も必要です。そういう理由から以前より県技師会主催の研修会に参加していましたし、最近では県内だけではなく県外の様々な学会や研究会に参加するようにしております。

このように様々な活動を通じて多くの方々と交流を持つことができました。これは私にとってかけがえのない財産であります。これも秋田県診療放射線技師会を通じて知り合った諸先輩や仲間がいなければ不可能であったと思います。私も入職してから20年を過ぎ、職業人として折り返し地点を過ぎました。今後は諸先輩方のように後進の育成にも関わっていきたくと考えております。

最後になりますが、これからも本会の発展に微力ながら協力して参りますので、今後とも皆様方より尚一層のご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

定時社員総会・特別講演報告

市立秋田総合病院 田村博文

平成28年5月21日(土)、にぎわい交流館(AU)3階多目的ホールにて、第76回定時社員総会が開催された。今年は、同日に同場所において、フレッシュャーズセミナーとシミュレーションソフトを用いた被ばく線量推定セミナーが開催されたこともあって、多くの会員の出席があった。

総会に先立ち、功労賞・学術功労賞の表彰式が行われ、功労賞には4名、学術功労賞には1名、計5名の会員が表彰された。受賞された会員は、今まで長年にわたり秋田県診療放射線技師会にご尽力されてきた方々ばかりであった。

表彰式終了後、定刻になり、豊嶋副会長の開会の辞により、定時社員総会が開会した。はじめに、藤原会長より挨拶があり、続いて資格審査委員、社員総会運営委員が指名され、出席会員により承認された。議長には木谷弘幸会員と鈴木準会員が選任され、資格審査委員長より総会成立が報告された。総会役員が指名され承認された後、早速、各議案が審議された。議長のスムーズな進行もあり、第1号議案から第6号議案まですべて、賛成多数により承認された。第6号議案平成28・29年度役員等の選任に関する



る件では、新理事7名を含む役員の方々が承認された。新理事の皆様には、今後の活躍を期待したい。

定時社員総会終了後には特別講演が開催され、「診療放射線技師の将来像」と題して、日本診療放射線技師会の中澤靖夫会長より講演を頂いた。中澤会長は、熊本地震に関する取り組みをはじめに、放射線治療スタッフの定数化・放射線関連機器の安全管理・国家試験委員会の構成について・臨床実習の在り方・バングラディッシュ支援活動・診療放射線技師法の改正・診療放射線技師制度に関する懇話会・新しい生涯学習システムの考え方・診療放射線技師の将来まで、非常にわかりやすく述べられた。特に、放射線治療スタッフの定数化においては、診療放射線技師二人体制(ダブルチェック)の重要性、放射線治療専門技師・放射線治療品質管理士の適正配置について述べられ、私も、放射線治療に携わる一人の診療放射線技師として、いかにダブルチェックが重要であるかを感じた。今後は、治療業務・検証作業問わず、ダブルチェックが必ず行えるような業務体制作りが必要であると感じた。また、診療放射線技師法の改正においては、医療安全のために疑義照会業務を取り入れていきたいと述べられた。疑義照会に関しては、当院でも議論され、検査または治療依頼において、疑わしい点があるときは、医師等に必ず確認するようにルール化されたところである。今後も疑義照会を進めて行き、それに付随したインシデントレポート報告も行うことが重要であると感じた。多岐にわたる非常に詳しい内容の講演であったが、会員の熱心に聞き入る姿が印象的であった。

特別講演終了後は、中澤会長・小田理事を来賓にお招きし、秋田ビューホテルにおいて、情報交換会が開かれた。毎年恒例となった表彰受賞者のスピーチと、初企画であろう若手診療放射線技師の自己紹介等があり、盛会に終わった。



平成28年度

学術大会・学術講演会報告

市立秋田総合病院 石塚 康 裕

平成28年5月21日(土)、22日(日)の2日間、にぎわい交流館A Uの多目的ホールにて平成28年度(公社)秋田県診療放射線技師会学術大会並びに学術講演会が開催されました。個人的に大会会場がフォーラム・アキタから変更になったときは、慣れない感じがあったものですが、最近ではすっかりホーム感を感じられるようになりました。

会員発表の演題数は昨年よりも増えて、特別講演後に9題、翌日に21題と2日間にわたって計30題の発表となりました。

学術大会は各セッションにおいて、演者の日頃の業務における創意工夫、より良い検査を行おうという情熱を感じられるものでした。それに応えるように会場からの質問も数多く、演者・参加者とも非常に有意義な大会になったのではないかと思います。

学術大会終了後には第一三共株式会社と共催のランチョンセミナーがあり、造影剤に関する情報提供が行われました。

その後はNPO日本胃がん予知・診断・治療研究機構の笹島雅彦先生から「ピロリ菌感染を考慮した胃がん検診と、その運用」と題した御講演をいただきました。ピロリ菌と胃がんの関係についてはあまり知識がなかったのですが、胃がんリスク検診と組み合わせることで胃X線検査もより有用性を増していくというお話は大変勉強になりました。

年々演題数が増え盛況を呈していく中で、来年以降どうなっていくのか、期待のもてる今回の学術大会だったと思います。



中央支部第2回ナイトセミナーを終えて

秋田大学医学部附属病院 谷口直人

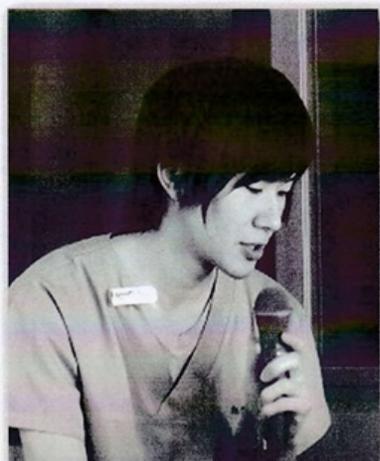
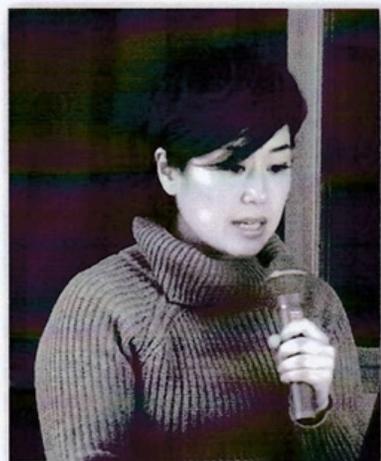
平成27年度第2回ナイトセミナーを1月29日に行った。今回は「肺」をテーマに術前検査(肺動静脈分離3D画像)の造影方法と画像処理について中通総合病院と大学病院での工夫を紹介していただいた。また、教育講演として秋田大学呼吸器外科准教授 齋藤 元先生より肺がん手術シミュレーションとして、どのように3D画像が活用され、どのようなポイントに注視しているのか、お話ししていただいた。

近年、CT検査は術前シミュレーション画像とし重要なものとなってきている。肝臓のVolumetry画像もその一つで、その重要性から先進医療から診療報酬の画像等手術支援加算に掲載されるに至っている。齋藤先生のお話では、このような術前3D画像は外科系医師にとって無くてはならないものになりつつあり、その適用術式(臓器)は今後拡大されるだろうと推測された。各施設で医師とのコミュニケーションを取りながら、それら画像がより活用される、役に立つ方法を検討する意義は十分にあると思う。当院では3D PDFを医師に提供することで術前シミュレーションの簡便さを図っている。現在、各WSメーカーも3D画像の観察に自由度を持たせた手法を提供すべく検討しているとの

ことである。

周知のように当院では3Dプリンターによる臓器模型の提供も行っている。画像も模型も私たち技師の手による造作物である。色使いもまた抽出の細かさも手がけた技師の主観に左右されることは言うまでも無い。しかし、逆に誰が作っても同じ精度で血管や臓器を抽出し、作成されるのが本来の姿である。そのため、臓器ごとの自動抽出技術は今後発展することと思う。そのことを表すように3Dプリンターの世界では「3D Fabrication」という言葉がある。Fabricationには、物づくり、または贋作という意味があり、まさしく贋作作りであると思う。如何に本物と同じ画像を、造形物を作るか、全てはそこに行き着く。より正確な血管や臓器の抽出が術前シミュレーションには最も重要であり、その努力は、手術時間の短縮や予期せぬ事故対応を簡便にし、執刀医師を通じて患者個人に還元される。技師の底力が試されているのかもしれない。

次年度以降もこのような企画を運営委員の皆さんと考え、支部活動を行って参ります。今後とも皆さんのご参加ならびにご協力をよろしくお願いたします。



マネジメント研修会に参加して

市立田沢湖病院 齊藤龍晴

近年、医療を取り巻く環境は厳しくなる一方である。「人・物・金・時間・空間・情報」

管理されるべき事項が非常に多い。各医療機関で起こるさまざまな問題、医師看護師不足、医療機器の更新ができない、予算不足、物品倉庫がない、待ち時間が長い、個人情報漏れたなどなど。上記のいずれかに起因し、また複数の事項にまたがりながら発生し単純でない事も多い。今回の研修である医療安全管理に関する問題も色々な要因の重なりで生じているようである。

講演では、損保ジャパンの大賀祐典氏から医療安全を概論的かつ法的立場から伺った。誰もが感じるように医療訴訟はメディアでことさらに大きく取り上げられることが多い。特に医療側の敗訴となれば鬼の首を取ったほどに誇張された文面になることも珍しくない。統計的に医療訴訟においては、その8割は医療側が勝訴しているという。そんな現実があるからこそ敗訴時には大変な話題として取り上げられるのだろう。しかし、本当に医療側の勝訴が当然ともいえる社会であろうか。講師は、「訴訟は多いが裁判の途中で和解となる事例が圧倒的に多く、判決を待つ勝訴と言える訴訟は多くはない。和解では医療側の過失などが理由にあげられ、主に金銭で損害賠償が行われている。そのため、和解に至った場合には勝利とは言い難いものも多い。」と言う。また、「裁判においては上告の繰り返しなどもあり、結審までの長い争いが展開される。原告・被告のどちらにも過度の疲労が蓄

積される。敗訴ならなおさら、たとえ勝訴となっても、虚しさが残り、達成感はなく、不毛である。」とも言われた。

医療関係者で医療訴訟まで至らないが、医療事故に遭遇した職員もいると思う。昨今、診療放射線技師が関与した胃透視検診中の事故及び核医学検査中の事故で、それぞれ女性1名が亡くなっている。県内でも医療安全に関しては事故防止に力が入られている。3施設からの発表では、どの施設も積極的に活動されていて素晴らしいと感じた。施設の特色に配慮された医療安全対策が施されていた。「医療安全は終わりのない戦い」ともいわれるだけあって、どの施設も現段階で満足することなく改善後も更なる改善を見据え実施する前向きな心構えも感じられた。

秋元医療安全管理者からは、国内での医療安全の歴史からヒューマンエラー・KYTなど広い範囲にわたり講演を受けた。私なりに医療安全について学習しているつもりではあったが、実際に起こった事故の詳細や改善事例を聞くことにより、自分の知識の薄さを指摘されたようでもあった。最後に、NTT東日本病院元院長の言葉が紹介された。「あなたの勤務している病院は自分の家族を診てもらいたい病院ですか。あなたは自信をもって薦められますか。」意味深い言葉に感じられた。我々は、「当然、当たり前のことです。」と言える職場作りに貢献していかなければならない。

シミュレーションソフトを用いた被ばく線量推定セミナーに参加して

秋田県立リハビリテーション・精神医療センター 佐藤 亜結子

セミナー参加の理由は、CTの線量アンケートに参加したこともきっかけの一つです。

DRLと自施設の撮影条件等の比較は行っておりましたが、被ばく線量低減と画質の担保のバランスをどう考えたらよいのか、そこからさらに一步やるべきことは、何か?を求めて参加しました。

当施設は、リハ、精神、認知症が主な診療科であり、CTの約6割が頭部、年齢は60～90代、中でも80代のCTを多く実施していました。アンケート回答することは、自施設の特徴を再確認することにつながりました。

頭部撮影で仰臥位困難(後屈大)は、水晶体被ばくとなり、被ばく低減の観点からジレンマを持ちながら撮影をしています(高齢者には寝台に寝られるだけで素晴らしい!と感じさせる状態の方に接することが多々あります)。

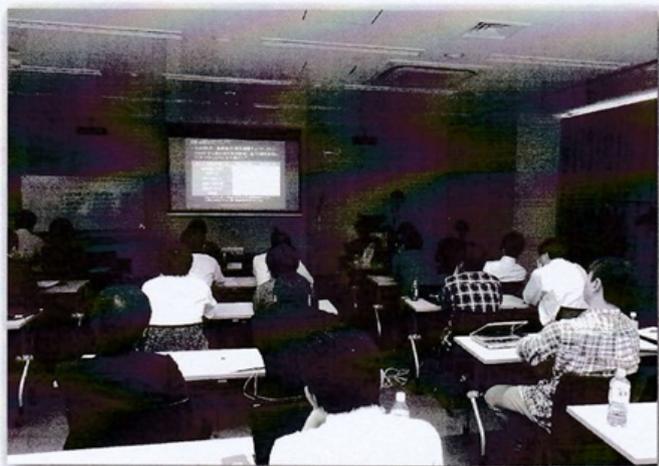
胸腹部撮影での上肢挙上不可などは肝臓SD測定でアーチファクトとなり、データとしてはSD上昇となることや、高齢者が多いため、基準体重(55kg、65kg)の対象データが少ないことで、データ集めに苦労しました。

私は、DRLが出されて始めは被ばく低減に

意識が傾き、次の段階では臨床画像に意識が向きました。ルーチンの条件といっても、先に述べた様々な要因で低下した画質から病変を指摘できるか、見落としされないか、そして線量低減ばかりを求めることも良くないなと漠然と考えていたところでした。

今回楽しみにしていた被ばく線量推計ソフトの話題は、CT検査での被ばく相談の場面など、目的臓器の数値mGyを示すことで、被ばくによる影響の説明に役立ちそうだということにも気が付くことが出来ました。私はこれまで、被ばく相談をされるという経験が少なかったけれども、医療放射線の専門職として診療放射線技師が任せられていた(やってあたりまえ)ことなのかもしれないという思いを新たにしました。

DRLと県内や自施設の線量状況を確認していくこと、シミュレーションソフトの利用による被ばく線量の理解は、(推計、検証、線量低減、画質の担保、患者様への被ばく影響の説明等)今後、一步進むためのPDCAサイクルの原動力となり大変有意義でした。講師やトレーニングサポートとして携わってくださった方々には感謝申し上げます。ありがとうございました。



母の日キャンペーン

母の日キャンペーン in AKITA 2016に参加して

市立大森病院 高橋 あゆみ

平成28年5月8日に秋田駅前にて行われました、母の日キャンペーンの一環である乳がん啓発キャンペーンに参加してきました。

当日は準備の段階から参加し、乳がんのセルフチェックシートやあけぼの会についての用紙をポケットティッシュに入れて、救理についてのチラシと共に配布を行いました。あけぼの会の方々や秋田赤十字病院の看護師さんたちを始め、他病

院の診療放射線技師の方、県庁の方、秋田大学の看護科の学生の方や先生、もりっちなど、様々な方々とも交流することができ、とても貴重な経験をさせていただけたと思います。

これからもこのような機会があったらまたぜひ参加し、乳がんの啓発活動に貢献していけたらと思います。



フレッシューズセミナー

フレッシューズ・リフレッシューズ
セミナーに参加して

市立秋田総合病院 高橋 萌子

5月21日に開催された平成28年度フレッシューズ・リフレッシューズセミナーに参加させていただきました。

セミナー当日には接遇・医療コミュニケーションを始めとし、脳神経についての臨床的な病気の理解について、医療安全について、そして技師会の役割・被ばく低減について医療人としての基礎的なことや診療放射線技師としての心がけを学ぶことができました。私は仕事を初めて2年目で参加させていただきましたが改めて意識しなければならないことが多く、また臨床的な知識も深めることができ貴重な経験となりました。

特に脳神経についての病気の理解についての話ではCTとMRIでの脳卒中の所見についてお話していただき大変勉強になりました。それぞれのモダリティでの脳出血と脳梗塞の所見や発症時からの時間経過による変化を実際の画像を見ながらわかりやすく説明していただきました。今後の臨床に生かしていきたいです。

また、技師会の役割・被ばく低減のお話の中で防護の最適化について改めて考えることができました。私たち診療放射線技師は診断に適切な画像を提供しながらも、患者さんへの被ばく最小限に抑えることを常に考えなければいけないということを再認識することができました。

このセミナーで勉強させていただいたことを日々の業務に生かし、精進していきたいです。今回このような貴重な機会を与您いただきありがとうございました。



認定・専門資格の取得状況と今後

～中央支部アンケートより～

3月17日の今年度支部活動報告ならびにシンポジウムを前に、支部内各施設に認定資格や専門資格の取得状況について施設内の会員・非会員問わず、技師全員の調査を実施した。支部内16施設の139名より回答を得た。

今回行ったアンケートは、各施設で診療放射線技師として活躍する上で、スキルアップやレベルアップ、または業務上必要とされる資格がどのような年代で取得しているのかを調べるとともに、未だ受講資格を得ていない25歳以下の仲間がどのような目標を立てているのかを知るために行った。

現在、診療放射線技師の免許を持ち、業務に従事し取得できる資格は数多くある。今回はその中から直接関わりのある資格を選別し、回答していただいた。これらの他にも試験が難しかったり、学歴に関わるものであったり、他の職種でも取得可能なものもあったが、皆さんが実務をこなしていく上でのスキルアップやレベルアップのための目標になる資格を中心に選んだ。皆さんの参考になればと思う。

アンケートは

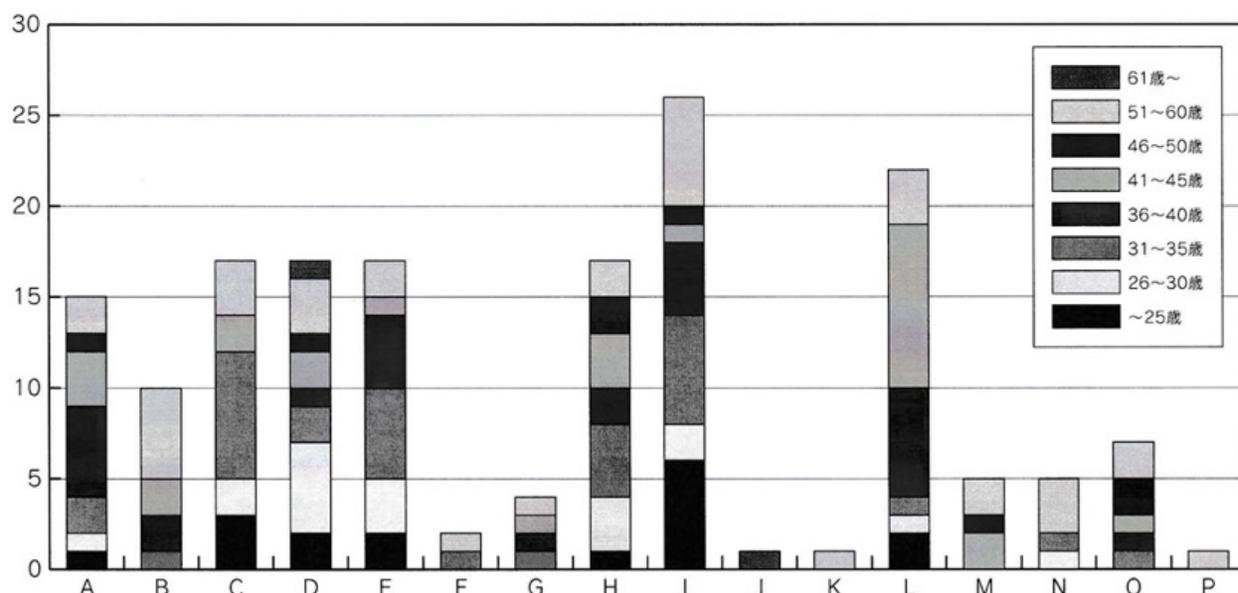
1. 回答者の年齢構成
2. 現在取得している資格について
3. 取得後、更新したあるいは更新の予定について
4. 今後、チャレンジしたい資格について

上記4項目について質問した。以下にアンケート結果について報告する。

アンケート結果

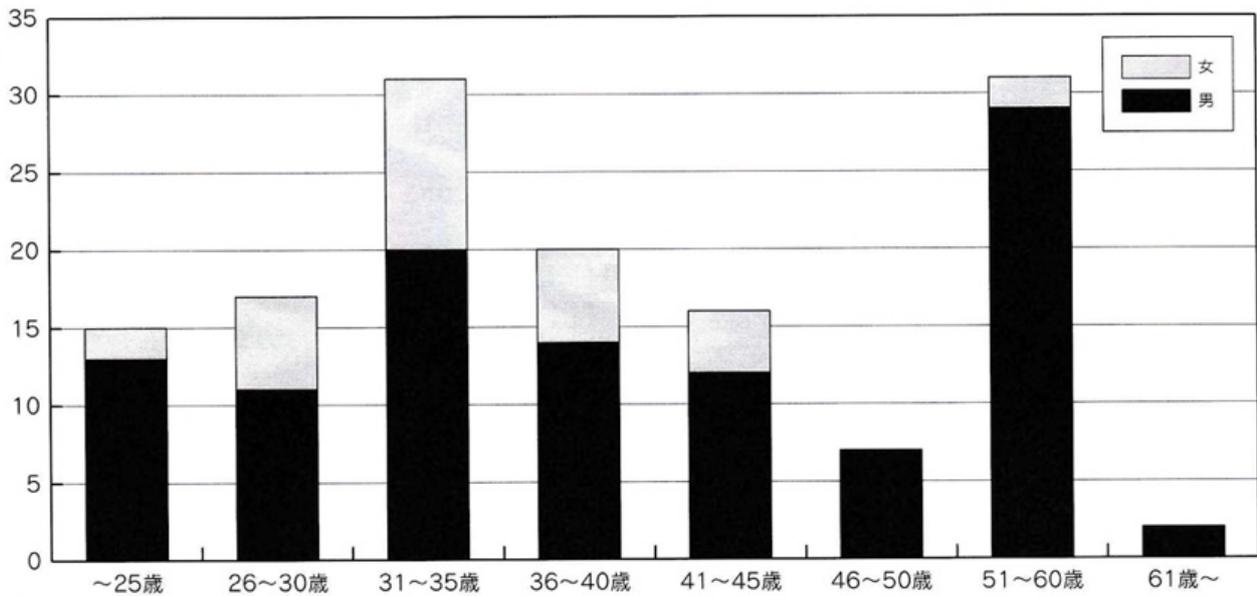
1. 年齢構成

＜施設ごとの年齢構成＞



- ・ 15名以上の施設では各年代の技師で構成されていた。
 - ・ 15名以上の施設の中で30歳代の構成割合が高く、40歳代が低い施設がみられた。
 - ・ 15名以下の施設では、年齢構成に偏りがあつた。
- ※年代は～50歳までは5歳区切り、51歳～は10歳区切りとなっていることに注意！

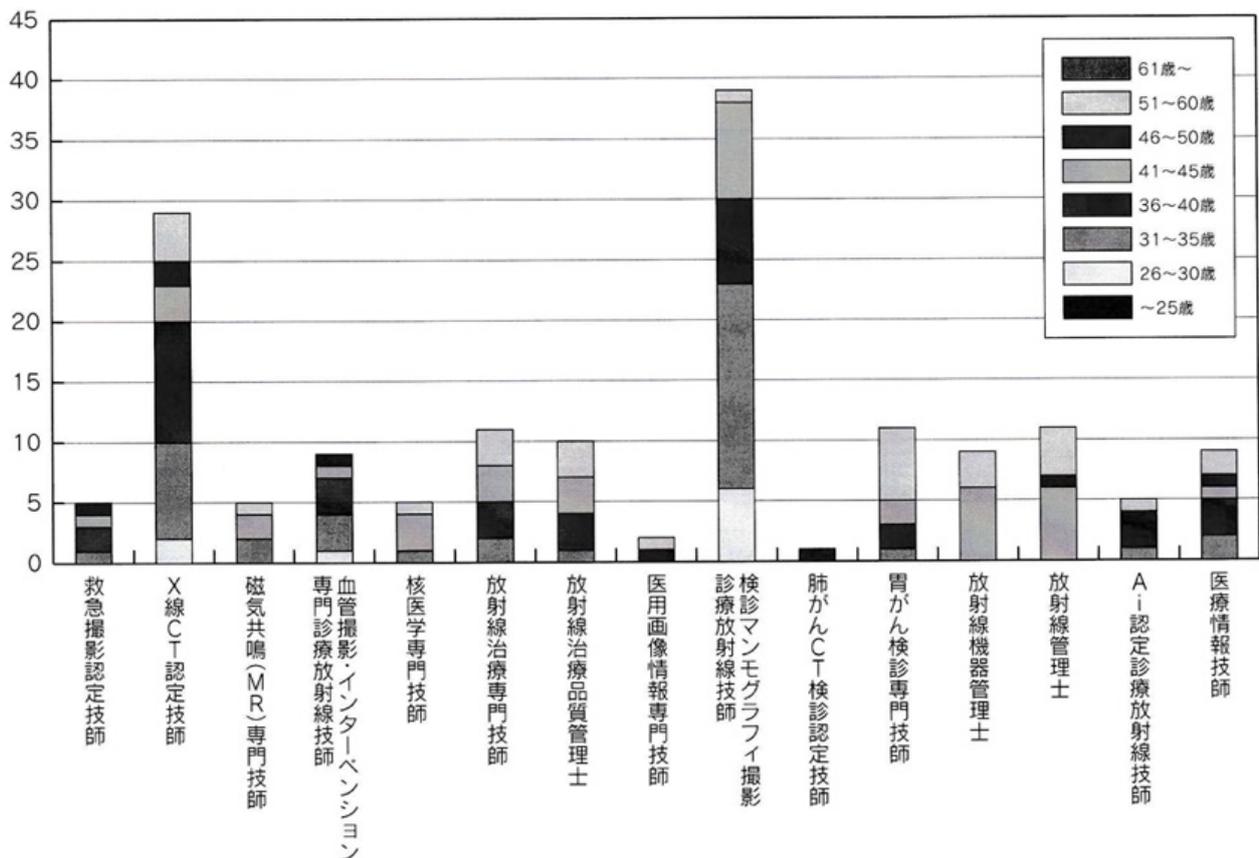
<性別>



- ・年代別に性別を表している。
- ・31歳～35歳の人数が最も多く、女性の数も多い。
- ・46歳～50歳の人数が少ない。

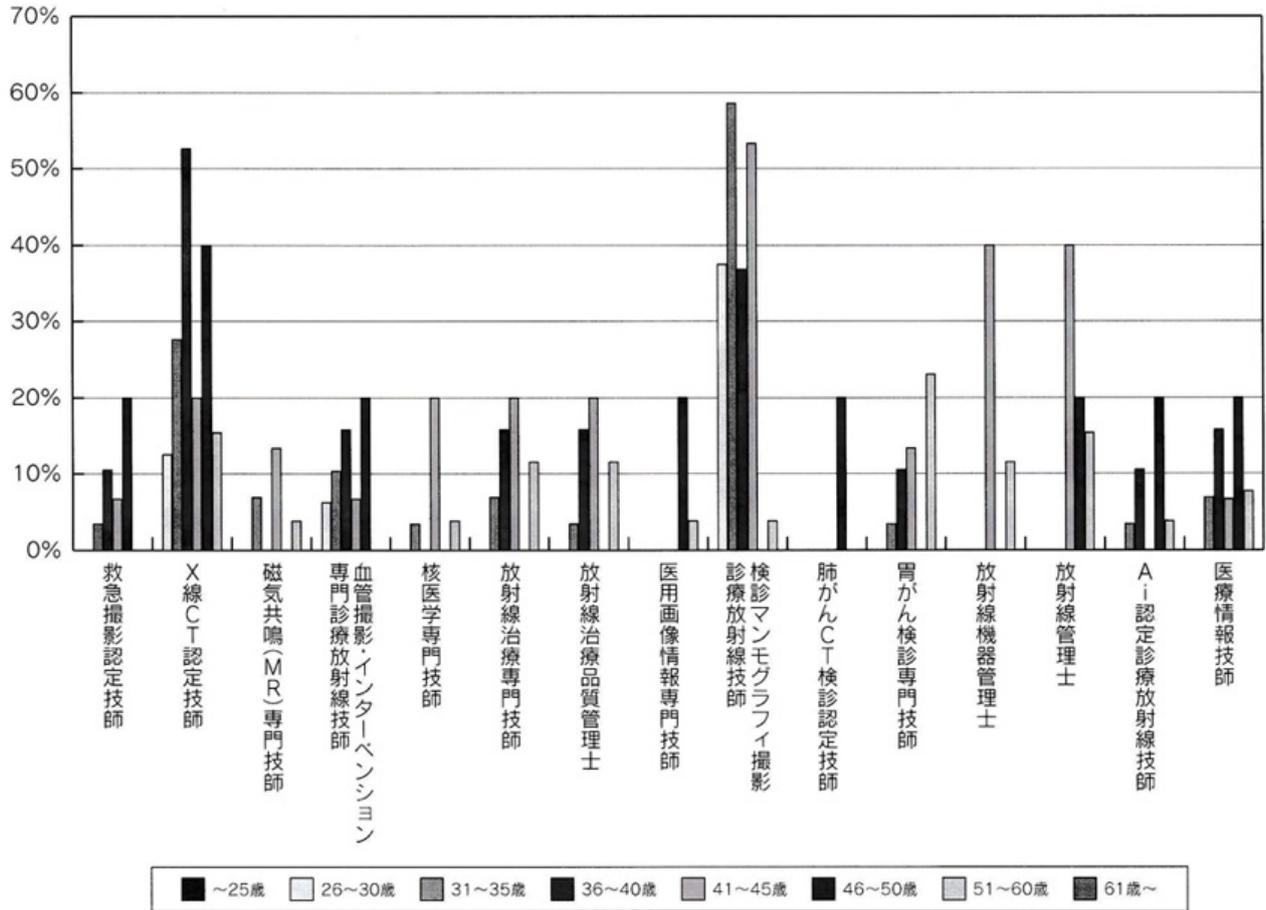
2. 現在取得している資格について

<年代別・資格別>



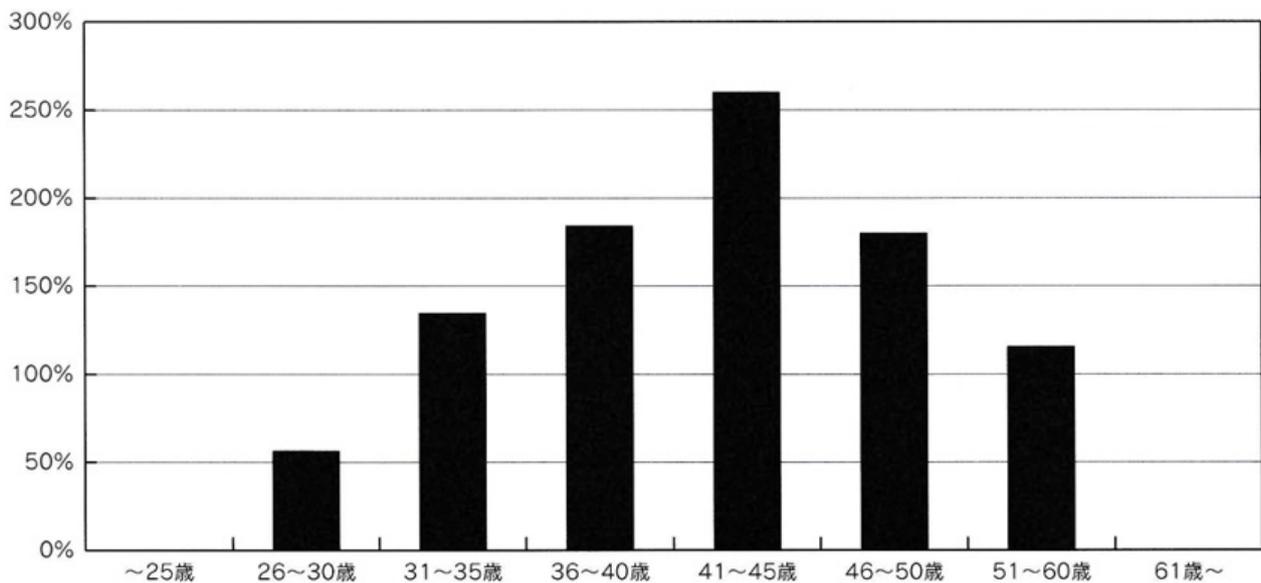
- ・各資格において30～45歳代の取得が多い。

下のグラフは、前のグラフを各年代別に、各資格の取得割合で表したグラフである。



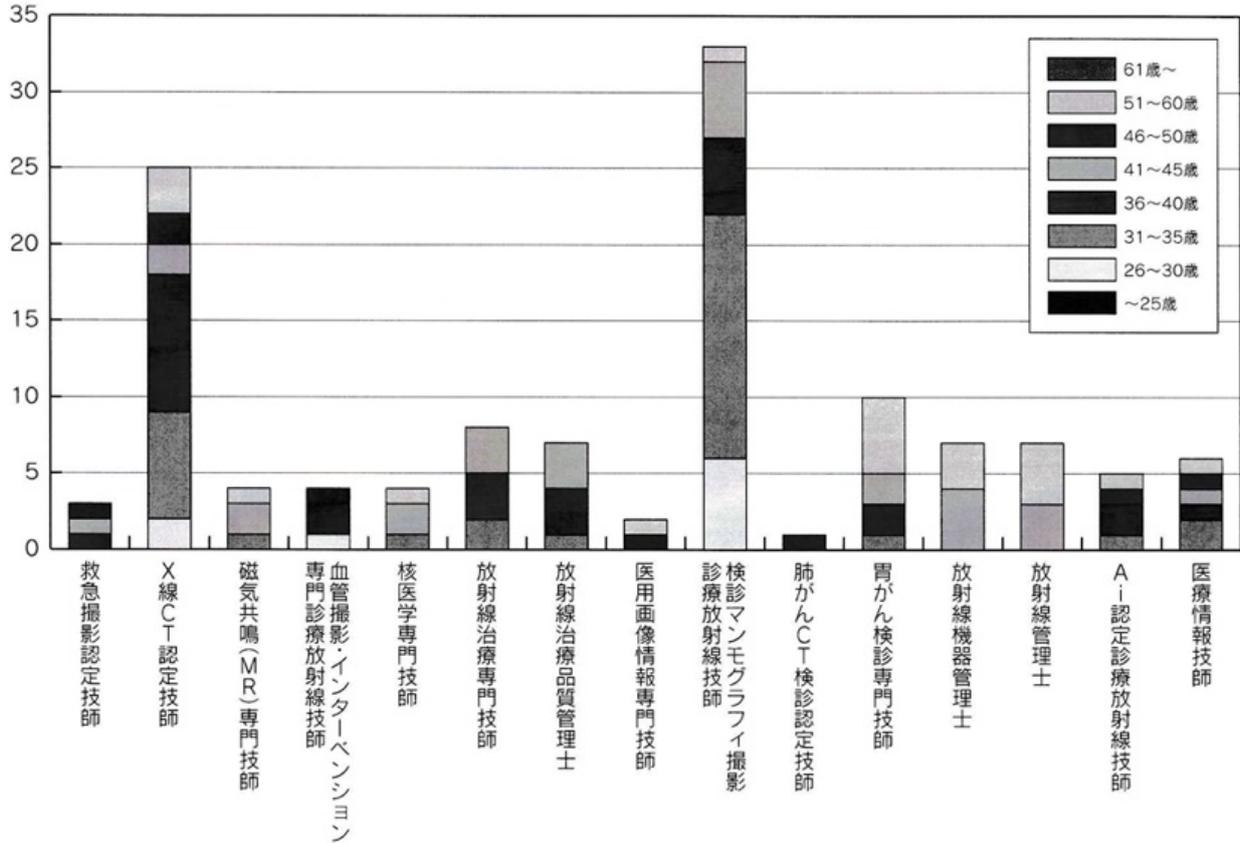
- ・「X線CT」「マンモグラフィ」の取得者は各年代で特に多い。
- ・専門資格は35歳以上の取得者が多い
- ・JARTの認定資格は40歳代以上で多く、それ以下の年代には取得者がいない。

下のグラフは、各年代毎に取得した資格数をその人数で割ったものである。

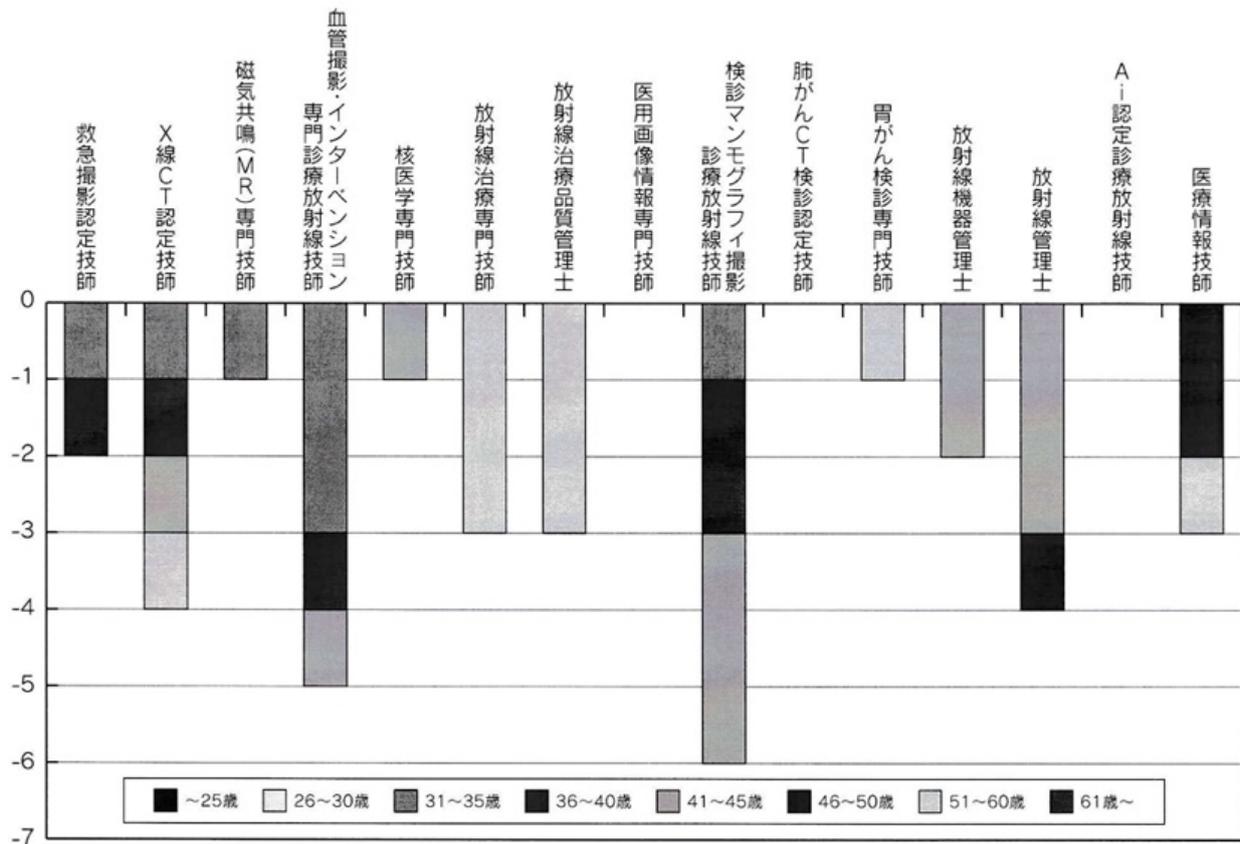


- ・41～45歳が最も資格の取得率が高く、平均して2.5の資格を持っていた。
- ・36～40歳、46～50歳が次に取得率が高く、平均して1.75の資格を持っていた
- ・26～30歳も約半数が何かしらの資格を持っていた。

3. 取得後、更新したあるいは更新の予定について



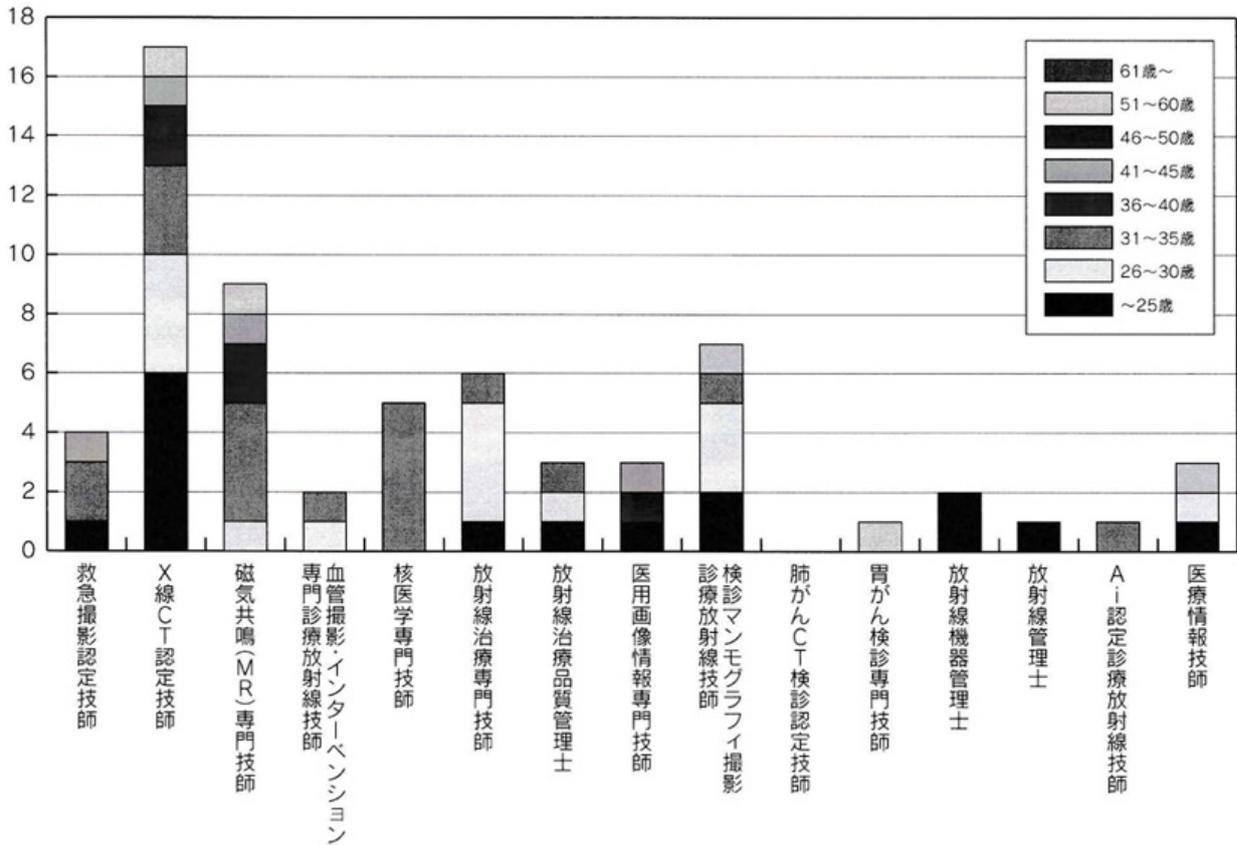
上は取得した資格を更新した、あるいは今後更新を予定している人の資格別・年代別のグラフである。
下は更新を予定していない資格とその年代を表す。



- ・資格取得者の多い「X線CT」「マンモグラフィー」で更新を予定しない人が多かった。
- ・31～40歳代の更新を予定していない人が多く、特に「血管撮影」ではその数が多かった。
- ・40歳代の「AART」資格の更新を予定していない人も多かった。

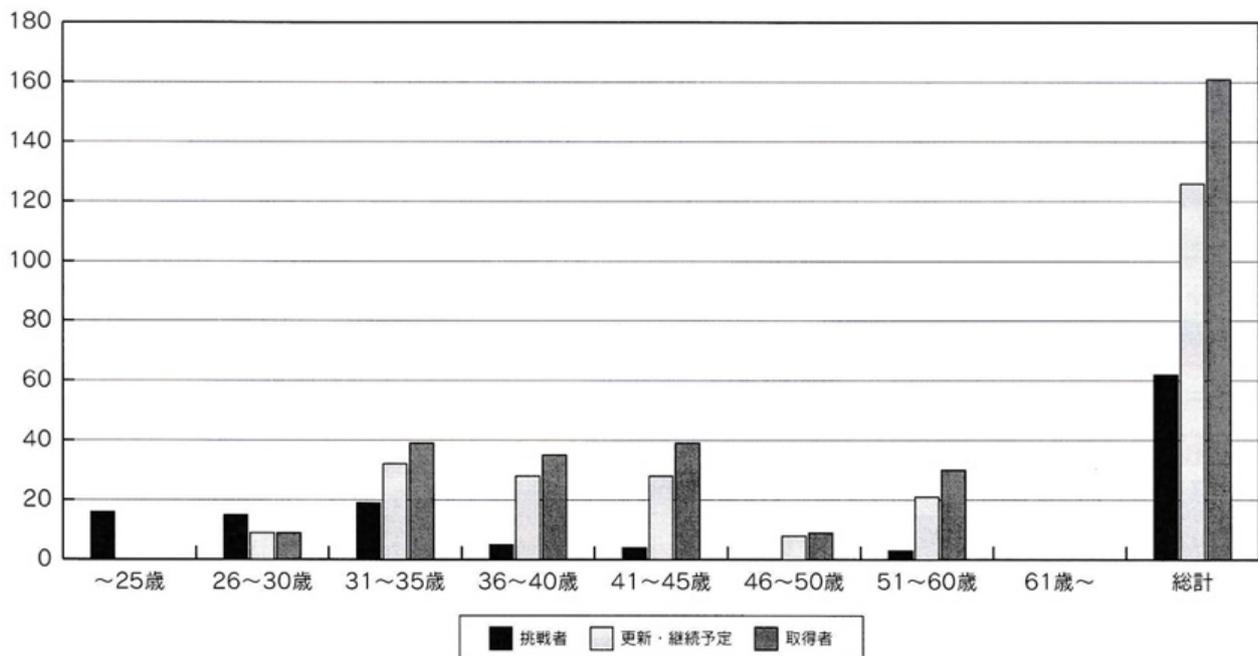
4. 今後、チャレンジしたい資格について

下のグラフは今後挑戦してみたい資格を資格別・年代別に表した。



- ・ ~ 30歳で各資格の取得を考えている人が多かった。
- ・ 「X線CT」では~ 40歳で多く、そのほとんどは~ 30歳であった。
- ・ 専門技師の「核医学」で31 ~ 35歳の取得を考えている人が多くいた。
- ・ 同じ専門技師として「治療」で~ 30歳の取得を考えている人が多くいた。

下のグラフは、1. ~ 3. をまとめたものである。



- ・ 資格取得者の内、更新済み・予定者と今後取得に向け挑戦しようとしている人の合計が~ 35歳で多かった。
- ・ 36歳~は逆に合計数が減る傾向にあった。

5. まとめ

各年代別にアンケートをまとめてみて、各資格には「勤務年数5年以上」などの条件があり、～30歳代の人たちはこれから取得を目指して頑張ろうという意気込みが感じられた。また、31～40歳は2つ目、3つ目の資格取得に励んでいる様子が伺えた。41～50歳では、おそらく各施設の主任クラスとしての立場になり、各モダリティーの責任者としてその資格を職場のために生かしていることと思われる。

このように診療放射線技師と言う国家資格を持ちながら、各モダリティーや分野で活躍するためにスキルアップの証明書として、認定資格・専門資格ができたのは、「検診マンモグラフィ撮影診療放射線技師」が走りであったと思う。無ければ検査ができないわけではなく、社会的に認められる手段としての資格でもあるように思えるが、是非、このような資格をお持ちの方々には研究会や学会、県技師会で先導者として引っ張っていくことをお願いしたいと思う。基本的知識から最新の知識と進歩の激しい時代であればこそ、このような資格取得者には期待したいと思う。そして秋田県のレベルアップを達成していただきたいと思う。

<謝辞>

本アンケートにご協力いただきました施設をご紹介します、感謝申し上げます。
ありがとうございました。

アンケート回答施設名

- ・市立秋田総合病院 ・秋田県総合保健事業団中央検診センター
- ・由利組合総合病院 ・秋田赤十字病院 ・秋田厚生医療センター
- ・御野場病院 ・秋田県立リハビリテーション・精神医療センター
- ・秋田県立脳血管研究センター ・秋田大学医学部附属病院
- ・細谷病院 ・藤原記念病院 ・中通総合病院 ・湖東厚生病院
- ・男鹿みなと市民病院 ・本荘第一病院 ・秋田県立医療療育センター

以上16施設

(技師数会員・非会員合わせて139名)



会 員 情 報

(平成28年6月30日現在)

【会員数】 347名(正会員345名、名誉会員2名、賛助会員:26社)
 東北支部:93名、中央支部:167名、県南支部:87名

※会員情報(住所・氏名・勤務先等)の変更は、日本診療放射線技師会のホームページにて手続きをお願い致します。

情報委員会
より

メール会員登録のお願い

現在、登録者数は約50%と、伸び悩んでいます。すでに、ペーパーレス化が進み、紙面での通知は限定されてきています。当技師会から会員の皆様への連絡を迅速かつ広くお伝えするために、メール会員の登録をお願いいたします。施設単位ではなく、会員個々の登録となります。携帯メールでの登録も可能です。登録者数を80%まで引き上げるために、登録をお願いいたします。

登録先メール: akita@aart.jp
 「メール会員登録希望」と記載してください。

メール会員数: 登録件数は193件

お知らせ

JART30・50年勤続表彰のお知らせ

JARTでは、表彰規程において会員の永年(30年、50年)勤続を表彰するとされております。その要件は

- ①診療放射線技師籍登録後、放射線技師業務に30年以上(あるいは50年以上)従事した会員
- ②JART入会15年以上の会員
- ③本年度までに会費未納の無い会員
- ④50年勤続表彰該当者は30年勤続表彰を受けた会員となっております。

今年度30年勤続表彰に該当される会員は、**技師籍登録1986年(昭和61年)**の方々です。例年、該当される会員の皆様には、はがきや電話にてご案内しております。本年も同様にご案内しますので、表彰を希望される会員は県技師会HP / 「会員の皆様へ」 / 「各種申請ダウンロード」より「表彰関係(履歴書)」をダウンロードし、ご記入の上ご準備いただけますようよろしくお願いいたします。

なお、本推薦でJART表彰委員会に受理された会員は来年度開催されます学術大会にて表彰されることになっております。当日、出席できない方には賞状と記念品が郵送される予定です。

また、今まで該当者(上記太字以前に技師籍を取得されている会員)でありながら推薦を希望されなかった方も要件を満たす方は推薦いたしますので、ご連絡ください。

ご案内

今年のピンクリボンキャンペーンの開催日が決定しました。

- 平成28年11月6日 日曜日
- アルヴェ 1階きらめき広場にて

女性会員はもちろん男性会員もふるってご参加ください！
 開催時間、内容等詳細につきましては、ピンクリボンキャンペーン in akita 2016 ホームページをご覧ください。

編 集 後 記

■今年度から、前沼田広報委員長より、広報委員会を引き継ぐこととなりました。広報委員のメンバーも、新理事の方が加わり、かなり若返りました。これから2年間、会員の皆様には、原稿依頼等ご協力をお願いしていきます。ご迷惑をおかけすることが多々あるかと思いますが、何卒よろしくお願いいたします。(田村)

■原稿を書いている現在、外は大荒れ！大雨が降っています。最近九州地方では地震やその後大雨による土砂崩れと毎日ニュースが絶えません。心痛む思いです。みなさんがこれを読んでいるところは梅雨も明け暑さ対策に取り組んでいるころでしょうか。今年は暑さ対策の為にグリーンカーテンを作りました。今のところ順調に生育しています。ゴーヤときゅうり等食材になるものを植えたので食からも暑さ対策しようと思うのですが。みなさんはどんな暑さ対策をしているのでしょうか。万全の体制で今年の夏もみなさん元気にのりきりましょう。(佐々木)

■ジメジメとした梅雨空を見ていると、夏が待ち遠しくなります。今年の秋田は久々に例年通りの梅雨らしい梅雨という感じがします。ここ数年、本来の梅雨のイメージとはかけ離れたゲリラ豪雨や激しい気温上昇などにより被害を及ぼしております。何か異常な気がするのは私だけでしょうか。春先には熊本を中心とした地震が起こり、さらに同じ九州をはじめ西日本各地に被害を及ぼす集中豪雨など、遠隔地とはいえ対岸の火事とは思えません。このような自然災害は秋田に住む私達にとっても、いつ何時起こるか分かりません。「災害は忘れたころにやってくる」日常生活を充実させながら、日頃から災害時の対応を考えたいものですね。私的には体調管理からですが…(笑) (大隅)

■先日実家から、さくらんぼが届きました。毎年おばと友人と実家から届きます。定年退職後に本腰を入れた一番経験の浅い父のさくらんぼが毎年一番すっぱいのですが今年は他にひけをとらない甘さで、子供たちもやみつきでした。孫を喜ばせたくて、大きい実がつくように雪解けの辺りから剪定し、実が大きくなったからさくらんぼにたくさん日光が当たるように葉っぱもぎをし、手間と愛情をかけて美味しく育てて送ってくれたんだと、ありがたく思います。もうすぐ70の父も80過ぎたおじも、どうか、脚立から落ちませんように。(平塚)

■初めての理事会からの帰り道のこと。この春、ニュースに引っ張りだこのあの方に会えたのです。まさかこんな場所で会えるなんて思いもしてなかったのが、心底驚きました。テレビで見るよりは小さく感じて、でもやっぱり会う人をドキドキさせるオーラは持っていました。鮭をくわえていたり、はちみつ壺を持っていたり、熊本出身だったりしていませんでした。協和の山中にいらっしやいましたので、お近くを通る方は十分ご注意ください。(高橋)

■毎日通勤で由利本荘市と秋田市を車で往復しておりますが、この冬は雪が少なかったため通勤ストレスが通常の半分以下という当たり年でありました。春からは初めて県技師会の理事に就任させていただき、たくさんの新しい出会いと経験をさせていただいておりますので、ますます当たり年を実感しております！1つ残念なことに、今年はアラフォーの始まりでもあるということですが、仕事をしっかりこなし、新しいことにも挑戦しながらその現実をゆっくり受け止めていこうと思っております。皆様よろしくお願いいたします。秋田市では6月からすでに竿灯まつりの準備が始まっております。職場の由利本荘市民とは若干盛り上がり温度差を感じつつ、我ら、竿キチ(竿灯まつり大好き人間)親子も毎日頑張っております。忙しくも楽しい夏を乗り切りたいと思います。(渡部)